

---

# G20

野球人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

G20

### 【Nコード】

N5465Z

### 【作者名】

野球人

### 【あらすじ】

ごく普通の高校生活を送っていたはずの俺、中野修司なかのしゅうじはある事件をきっかけにどこか分からない異世界に送り込まれた。

元の世界にもどり、あの事件の真相を探るべく冒険を始める。

## 登場人物紹介（前半）

中野修司・・・本作の主人公。ある事件をきっかけに異世界、『ロカード』に飛ばされてしまう。男

エルニ・レイナ・・・G10に所属。陛下とは・・・？女

ナルノ・シュターゼン（陛下）・・・『ロカード』の首都『カドイフ』を治める王族。年齢13。女

カンデ・ローナ・・・G2に所属。G2でも最下位の实力。女

レット・セイカ・・・G20に所属。G20で第2位。女

インダ・ドル・・・G14に所属。女性に対してキザである。男

まだまだ出ると思いますが、メインは大体こんなかんじです。



・・・もう朝・・・か？

「ん・・・」

頭がまだボーとしている。寝起き特有の何も頭がない状態が続く・・・

「ってあれ？」

こ、ここは？俺はなぜこんなことに？

「え？え・・・？」

あたりを見回してみると、とても豪華な部屋にいたことがわかった。

「あれ？確か俺は・・・」

今、俺は危機的状況に陥っている・・・とでも言うのだろうか。

「ちよっ！待てっ！」

目の前にはナイフを手に持ち今にも刺してきそうな覆面男がいる。

「か、返せ！」

覆面男はさっきからこればかりだ。なんだ返せって・・・

「だ、だからなにをだ！とりあえず落ち着け！」

「お前のせいで俺の息子は死んだんだ！」

はい！？全く意味がわからない！と、とりあえず現状を確認だ！

・学校から帰ってきたらなぜか家に覆面男がいた。

・俺を見るなりこうなった。

全然わからない！もちろん俺は覆面男の息子なんて知らないし、身近にいた人が死んだなんて聞いてない。

「う、うわっ！」

ズキッとわき腹に痛みが走る。さ、刺された・・・のか？意識が・・・

・。

つてはずだった。なぜこんなところにいるんだ？

「起きましたか？」

「う、うわ！」

だ、だれ！？

「あ・・・。すみません・・・。」

いきなり声をかけられたと思ったら今度は謝られたぞ？なんだ？

「私の名前はエルニ・レイナ。エルナとお呼びください。」

「あ・・・エルナさん？ってどこの人？」

「どこって・・・？この国ですが？」

ここってどこだよと言おうとしたら・・・

「あなたのお名前は？」

あ、ああそういやまだだったな。

「俺の名前は中野修司<sup>なかのしゅうじ</sup>。ってかここはどこ？」

「ここは王族付属の寮G1です」

「・・・G1？」

聞き慣れない言葉に聞き返す。

「はい。詳しい話は王宮に行ってからあると思うので・・・」

なるほど。王宮とやらに行ったら事情がわかるのか。

「わかった。じゃあさっそく行くよ」

「はい。では一緒に私が同行させていただきます。」

王宮への行き道。

「ところで俺はなんでこんなところに居るんだ？」

ほとんど記憶が無いので半ば独り言のように言つと・・・

「さあ・・・？ここから東のほうにある森の奥で倒れておりましたよ？」

なんでそんなところに……。とか考えている内に王宮つていうところに着いた。

「う、うわ……。」

中はとんでもなく豪華だった。俺が寝ていた部屋。確か……。G1だっけ？もけっこう豪華だったけれどあれとは比べ物にならない。

「こちらですよ」

「お、おう」

そして一際大きく、キレイな扉の前に来た。

「さあ、これから陛下にお会いしますよ」

## G 1（後書き）

新しい小説を投稿させていただきました。

今回は戦闘物を書くこうと思いいこのG 2 0を書きました。少しでも興味を持っていたいた方、展開のペースは遅いと思いますが学生なのでそこは見逃してください。

下手だと思いますがご指摘、感想をよろしく願います。



## 入寮

ガチャリ・・・と思い扉が開いた。開けたのではなく開いたのだ。  
「・・・」

少し戸惑いつつも奥に進む。まあ隣にはエルナさんも居る事だし。  
「よくきたな」

少し幼さを残し、それでいて凜とした声が聞こえてきた。あれが陛下・・・？ってどう見ても12、3歳の少女なんだが

「陛下。この方が例の・・・」

「うむ」

例のって・・・あ、俺のことか。

「名前は・・・？」

「あ、えつと・・・中野修司です・・・」

「ナカノ？聞かない名前だな？」

まあ日本名ですからね。

「じゃあ、さっそくだがエルナ」

「は、はい」

「彼をG20に入寮させてくれ」

何？G20って？さっきのはG1だったよな・・・？

「えっ！？い、いきなりですか！？」

エルナは驚いているがこっちはさっぱりだ。

「わかったか・・・？」

「はい・・・」

（帰り道）

「はあ・・・」

エルナさんは帰り道ずっとため息ばかりついている。

「ど、どうした・・・？」

さすがに心配になったので聞いてみた。

「だってあなた！G20ですよ！？」

「え・・・だからG20って何？」

「ほ、本気で言ってるんですか！？」

本気だよ。俺はいつでも本気だよ。

「うん。一応・・・」

「あなた、どこ出身なんです？」

「日本だよ。三重県出身」

「ニホン？ミエ？聞いたことありませんね・・・」

え・・・。マジかこの人。っていうかさ・・・

「あの、ここはどこなの？陛下さんは何にも教えてくれなかったけど」

「あ、えつとここは『ロカード』、その中の首都『カドイフ』です。」

「それこそ聞いたことないぞ・・・？ってことはここは・・・い、異世界ってこと？」

「え・・・。それって」

異世界ってこと？と言いかけたとき

「あっ！あそこに見えるのがG20ですよ」

で、でかい・・・。声が出ないほどの衝撃だった。

## 入寮（後書き）

さつそく2話目を投稿させていただきました。  
できるときに投稿していくのでそこところはよろしく願います。

では、ご指摘、ご感想お待ちしております。

## レット・セイカ

目の当たりにした『G20』。さっき行った王宮ほどの大きさがある。

「さあ、入りましょうか」

エルナの声には少しばかり緊張が混じっていた。

本日2回目の重いドアを開ける。（てか、勝手に開いた。）

「なあ、なんでこのドアって勝手に開くんだ？」

ずっと思っていたことを聞いてみた。ちなみに帰り道、エルナに敬語で無くても良い。と言われたので、それからはタメ口だ。

「なんでって……。それは、『ワンス』ですよ……？」

「わ、ワンス？」

聞き慣れないその単語を言い返す。

「はい。手を使わずにドアを開けたり、物を動かしたりすることですよ？」

うん？ようするに魔法……。？いやいや、魔法なんてこの世にあるわけ……。でもここは異世界らしいし……。なら有りなのか？いやしかし……。

「あつ！セイカさん……」

イロイロ考えていると目の前に一人の少女がいた。碧眼で金髪だ。みるからに日本人ではない。

「あら。エルナさん。そちらの方は？」

セイカと呼ばれた少女は俺の方を見て言う。

「あ、こちらはナカノ、シュウジさん。」

「ああ、例の……」

なんだよ例のって。

「シュウジさん。こちらはレット・セイカさん。」

「はじめて。」

## レット・セイカ（後書き）

今回は微妙なところで終わってしまい申し訳ありません。

新キャラの説明もできなく自己都合により今話は終わってしまいました。

次の話できちんと説明して行くのでよろしくお願いします。

## G 2 0 (説明)

「はじめまして」

軽くあいさつを交わす。すると

「ではさつそくこのG 2 0を説明しますわ」

会ったばかりだというのにセイカはこのわけのわからなく、どでかい建物について教えてくれるそうだ。

「では、まずここではG 2 からG 2 0までの格付けがされています。

」

お、さつそくの説明だ。よく聞いておこう。

「一番下がG 2、上がG 2 0となります。」

「へへ、あれ？でもなんでG 1が無いんだ？」

気になったので聞いてみると

「G 1はこの学校の教師なんです」

「えっ？ここ学校なの？」

初めて知ったぞ？そんなこと。

「それはですね・・・」

「説明中」

とりあえずこういうことらしい。

ここはカドイフにある学校で『セント高校』。実際は違うのだが俺が勝手に、日本名をつけた。そしてG 2 0はその学校でもトップクラスのやつらがいる。トップクラスというのは勉強でも、スポーツでもなくさつき教えてもらった『ワンス』が強力な人。つまりあの魔法が強いほど学校でも優等生ということらしい。

で、この俺こと中野修司は陛下のご命令でこのG 2 0に編入されたってことらしい。

学校自体はこの寮から約100Mほどの距離でとても近い。しかしこのG20を見て、でかいと思ったがこれはG20だけではなくG2からの全員が入っている。つまりG2からG20までのおよそ300人ほどがこの寮にいるらしい。

（でも部屋割りはちゃんとクラスごとに分かれてるんだからややこしい・・・）

G2などは、たんなる格付けなのでG2からG20までいるんだとか。

「まあ、G20とかはたんなる成績だと思っていてください」

「はあ・・・」

うーん……。ざつと説明してもらったけどわかりにくいな……。まあその内慣れるだろ。

「そして私はG20の中でも第2位の实力ですわ!」

「へ、へえ、すごいな」

やや声を大きくしてしゃべるセイカに少し驚く。

「で、では修司さん。部屋にご案内します」

「お、おう」

エルナも少しびっくりしていたようだ。

「じゃあ、いろいろ教えてくれてありがとな」

「お安い御用ですわ」

セイカに例を言っつて自室へと案内してもらう。



## G20（説明）（後書き）

今回は説明が多くてすいません。でもやっぱり説明していかないとわからなくなるだろうし。自分も（当たり前ですが・・・）  
少しづつ、ゆっくりだと思いますが進めていくのでよろしく願います。

## 自室にて

「ここが修司さんのお部屋になります」

「ほお・・・」

思わずこんな声が出てしまう。俺はなぜだか知らんけどG20に格付けされたから部屋も豪華なんだろうか？

「と、言ってもベットとかしか無いんだな」

「と、言いますと？」

「ああ、別に不満では無いんだが、テレビとかパソコンとかは無いのかなって・・・」

こんな異世界に来てまでもそんな心配しかできない俺は自分自身に少々あきれるが・・・

「てれび？ばそこん？ああ、東洋の物ですか？」

「まあ、そうらしいな・・・」

自室にくる途中、エルナに日本の話をしたんだが、うまく伝わらなくけつきよくこんなかんじになった。

「あの、また明日、王宮に行かなければならないので今日はゆくりしていて下さい」

「へ？また行くのか？」

正直ああいうところ、苦手なんだよなあ・・・

「ええ。まあ、状況があれですし・・・」

「状況？」

「い、いや。こちらの話ですので。では夕食の時間にはまた呼びに来ますね」

と言ってエルナは出て行った。まあ夕食までのんびりしてるか。

「・・・さん。修司さん！」

「ん・・・？」

「起きてください！夕食ですよ？」

ああ、寝てしまったらしい。でもどこな知らないところでも寝れる俺って、適応力すごいね。

「食堂に案内しますので」

「わかった。行くか」

これまた食堂は広いのなんの。って300人程にいるって行つてたからあたりまえか。

「では、修司さんは裏方へ回ってG1の人たちへ挨拶に行つて下さい」

「え！確かG1って先生がいるところだよな・・・？」

「はい、そうですね・・・？」

ん？このエルナの疑問顔。どっかで見たことあるような・・・？あれが既視感ってやつか。

「こっちの職員室みたいなもんだよな・・・。なんとなくイヤだな」日本にいた時のことを思い出し、しぶい顔になる。

「そんなこと言わずに！別に悪いことして行く訳ではないですし」

そりゃそうだ。ここにきてまだ半日ばかりしか経ってないのに、呼び出しなんてどんだけ大物なんだよ。

「ここからG1までは一本道なのでそこの第一ゲートから行けば着きますよ」

「わかった。ありがとな」

エルナに礼を言つてG1へと向かう。ちなみに俺が最初寝てたところは、G1でも保健室みたいなのところらしい。

「っていうか・・・。やっぱり行くのイヤだよな。職員室・・・」

日本での行いが頭を過ぎる。世話になつたよな。よく・・・。

## 自室にて（後書き）

更新が不定期ですいません。少しずつG20の世界がわかって来たでしょうか？

バトルシーンは都合によりまだ出せずにすいません・・・  
あ、頭の中ではちゃんとできているんですよ！？ww

たぶん説明がわかりにくいと思いますので  
わからないところは感想に書いていただくか  
メッセージを送ってもらったら説明をしますので。  
これからもよろしく願います！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5465z/>

---

G20

2011年12月25日17時55分発行